

海外での経験値を生かして小石丸プロジェクトを牽引

力強い、リマとアブダビ、クアラルンプールでの「日本外交」経験

UAEのアブダビ日本人学校では、日本の子供たちのほか、UAE国籍の児童と生徒も在籍する世界でも唯一の学校です。

同校の梶山明彦校長先生は、今回のプロジェクトをUAEと日本の架け橋と位置付けており、全校あげて取り組んでいます。一学期は小石丸が全滅してしまつたことから、夏休みに東京で開催された製糸工場見学ツアーに、同校の木村雄一先生をアブダビから参加させるなど、今期にかける意気込みは強い。日本人学校の務めとして、日本

アブダビ校での集大成のつもりで

の顔として、海外との交流事業に人一倍理解を示し、実践することである校長先生で、日本大使館からの信頼も厚い。

福岡県飯塚市出身で、福岡市が主催する「アジア太平洋こども会議」でも、飯塚市の小学校に海外の子供たちの短期留学受け入れに向け中心となり動いています。

また、二〇〇八年から三年間、南米・ペルー共和国のリマ日本人学校で、当時の中曽根弘文外務大臣夫人とともにソロバンを深めるなど、日本外交を積極的に推進してきました。



梶山明彦校長先生(上)と孵化して

人工飼料を食べる小石丸(下)



熱く語る沼田忠晶校長先生

仲田小学校(東京・日野市)の沼田忠晶校長先生は、「本校は農林省時代の蚕糸試験場の跡地に建

日本の養蚕復活と子供たちの国際感覚育成

二校と蚕を通して国際理解教育を深め、子供たちには人とのつながりの大切さを学んでもらいたい。そのため協力は惜しまない。その意味からも小石丸プロジェクトを日本の養蚕とともに盛り上げていきたい」と話しています。

沼田校長先生は、マレーシアのクアラルンプール日本人学校時代、子供たちに蝶の飼育をさせながら「命の尊さ、生命を育む大切さ」を学習させることを目的に校内に蝶の飼育施設を作った経験を持ちます。

てられた小学校で、桑園も整地されるなど地域の方々の養蚕熱も高い。残念ながら現在、日野市に養蚕農家は無いが、近い将来、市内で養蚕農家が生まれてくれれば、たいへん嬉しい。また、UAEの

今期、アブダビ校と交流するのは仲田小学校と本宿小学校、啓明学園初等学校の三校。ドバイ日本人学校とは、杉並第十小学校、月島第一小学校、八王子榎原小学校の三校です。